

案件概要表

I. 提案事業の概要	
1. 対象国名	ネパール
2. 案件名	ネパール国都市近郊農村における IPM 農産物の出荷と販売の仕組みづくりを通じた農業活性化（草の根パートナー型）
3. 事業の背景と必要性	対象地では、化学肥料や農薬の過使用により土壌が汚染されていたところに、1997 年から当団体が化学肥料・農薬不使用の野菜栽培を導入し、断続的に支援をしてきた。2017 年からパンチカール市において IPM(Integrated Pest Management:総合的病害虫・雑草管理)農法を中心とした総合的農村開発プロジェクトを実施して、土壌改善、農業人材の育成を実施している。IPM 野菜の生産量は増加し、販売に取り組み始めたところであるが、ネパールの市場は、安全な野菜も一般野菜も区別はなく販売されている。安全野菜の生産を始めた農家が、環境保全の意識も持ち生産活動を継続するためには、安全という付加価値で販売できる市場が必要である。農家の生産、出荷、販売までの一連の過程を強化することが求められている。
4. プロジェクト目標	プロジェクトで指導した IPM 農産物の販路が拡大する。
5. 対象地域	カブレパランチョーク郡パンチカール市
6. 受益者層 (ターゲットグループ)	IPM 農家：662 世帯 新規小規模農家 350 世帯(1 世帯平均：4.5 人)約 4,554 人 パンチカール市(9,381 世帯：42,011 人)の約 30%の住民。カトマンズの住民 10,000 人
7. 生み出すべきアウトプット及び活動	<p><アウトプット></p> <ol style="list-style-type: none"> 市場ニーズに合致した IPM 農産物の計画生産ができるようになる。 IPM 農産物の出荷体制が構築される。 IPM 農産物がローカル市場で販売されるようになる。 カトマンズでの IPM 農産物の販売に取り組む農家が増える。 <p><活動></p> <ol style="list-style-type: none"> 1-1 市場調査を実施する。 1-2. 前プロジェクトで育成した IPM 農家を対象に農業技術のフォローアップ研修を実施する。 1-3. 新規小規模農家を対象に LGN 主催で IPM 農法研修や家畜飼育支援を実施する。 1-4. 1-1 の市場調査の結果に基づき、対象農家が市場のニーズに合わせた生産計画を立てる。 2-1. IPM 農家と LGN で出荷のための生産量や出荷量のデータを集約できる仕組みを作る。 2-2. 2-1 で作成したデータを一般農家や販売にかかわる関係者が活用できる状態にする。 2-3. LGN 主導で IPM 農家に等級分けや梱包などの出荷にかかる研修を実施する。 2-4. 組合や既存の農家グループを活用し、カトマンズやローカル市場に共同出荷する仕組みを整備する。 2-5. 現地専門家、パンチカール市と LGN が協議して安全野菜のパンチカール市の認証の仕組みを作る。 3-1. パンチカール市と LGN が協力して市内に農家が直売できるローカル市場を 1ヶ所以上設置する。 3-2. IPM 農家に能力構築研修（ジェンダー平等、マーケティング、動機付け、健康）を実施する。 3-3. 地域住民を対象として、健康につながる IPM 野菜の啓発活動を実施する。 3-4. パンチカール市と LGN がローカル市場に販売する農家を募集する。 3-5. パンチカール市の安全認証を受けた IPM 農産物がローカル市場で販売する。 4-1 LGN のマーケティングスタッフが対象農家に、IPM 野菜のカトマンズへの販路を紹介する。 4-2 LGN の主催で IPM 農家と販売業者（小売・卸）とのイベント等のマッチングの機会を作る。 4-3 LGN が中心となりカトマンズの消費者を対象に環境や健康に関する適切な情報を普及する。 4-4 パンチカール市の安全認証を受けた IPM 農産物をカトマンズ市場で販売する。
8. 実施期間	2023 年 10 月～2026 年 9 月
9. 事業費概算	99,983 千円
10. 現地カウンターパート	ラブグリーンネパール (LGN)
II. 実施団体の概要	
1. 団体名	特定非営利活動法人ラブグリーンジャパン
2. 活動内容	ラブグリーンジャパンはラブグリーンネパールと協働で 1991 年より、カブレパランチョーク郡パンチカール盆地にフィールドの拠点をおき、環境保全を軸とした農業・農村開発事業を実施してきている。